

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 072	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 今後の種苗放流等について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 ○ 当事業団は、水産資源の維持拡大、沿岸漁業者の経営安定を図るため、葉山町から湯河原町地先に、サザエ・アワビ・マダイ・ヒラメ・カサゴ・マコガレイ等の種苗放流を実施している。 ○ 現在、種苗の種類、放流場所・時期は、各組合の要望により実施している。 ○ 相模湾の漁場環境等に照らして、種苗種類毎の放流場所・時期・大きさ等の調査、指導並びに放流後の育成、分布等、調査を要望する。 ○ また、相模湾に適し、放流効果が期待できる新しい種苗の開発について要望する。 (現在漁業者から「ハタ」の要望がある。)	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	栽培推進部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 新栽培対象種の放流技術開発研究、種苗量産試験、200海里内漁場資源調査、気候変動により資源が増大する暖海性魚類の活用			
対応の内容等 サザエ・アワビ・マダイ・ヒラメについては、過去の調査研究から適正な放流場所・時期・大きさ等が明らかになっており、必要に応じて効果的な放流方法を各地区の普及員とともに指導してまいります。また、トラフグ、ヒラメ、マダイの放流後の成長等については、現在実施している沿岸水産資源再生技術開発事業や200海里内漁場資源調査等で対応しております。 新しい魚種の種苗開発では、栽培漁業基本計画に基づいて、カサゴ、トラフグ、マナマコについて取り組んでいるところですが、平成28年度からは、それらに加えて地球温暖化に対応した新魚種の種苗生産技術開発にも取り組む検討を始めており、御提案のあったハタもその候補に挙げております。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			